

**住まい作りに失敗しないために**



**松下進建築・照明設計室**

## 1. 住宅を“買う”？

住宅を“買う”・・・多くの人はこのように言うのではないのでしょうか？  
車や家電のような感覚で住宅も考えているとこのような言い方になります。  
建売住宅やマンションを購入する場合は仕方がないかも知れませんがね。

しかし本来住宅は“建てる”ものです。  
そこには自分で創るという感覚が加わります。

もちろんプロではないですから、自分の手を動かして創るということではできません。  
プロに手伝ってもらいながら自分で創るということです。

しかも創るのは“モノ”ではなくて“空間”です。  
同じ建材を使っても、使い方で空間は大きく変わります。  
現に木を使う木造住宅でも本当にいろいろな住宅があります。

まずこの感覚を忘れないでください。  
**住宅は“買う”のではなくて、“建てる”のです。**

次に、ではどうやって建てるかを考えましょう。

1. ハウスメーカーにお願いする
2. 工務店にお願いする
3. 設計事務所をお願いする

どれも一長一短です。

1. ハウスメーカーにお願いする

最も多いパターンです。

基本的に要望さえ伝えておけば住宅はできますので、楽です。

ただその要望を完全に満足させることは難しく、妥協を強いられることになります（予算があれば別です）。

できてしまうと何となくどこかで見たとような住宅になります。

施工する工務店も下請けですので、どうしても効率重視になります。

## 2. 工務店にお願いする

技術的には確かな場合が多いです。

元請けですから、責任を持って施工してくれます。

ただ設計については、少々不安が残ります。

どうしても昔からある間取りになりがちですし、細かい要望を満たした設計になりにくい  
です。

## 3. 設計事務所をお願いする

かなり自分の要望に近いプランになりますし、それ以上に良いプランになることも期待で  
きます。

また工務店の選定や施工の監理をしてくれるので、施工の質も高まります。

ただプランを決めるまでに、時間も労力もかかります。設計料もかかります。

設計者の性格や経験によって設計内容が大きく変わりますし、相性が合わないとうまく行  
かないこともあります。予算が合わないということも結構あります。

どの方法が一番ということはありませんので、自分に適した方法を選んでください。

しかしいずれの場合も、プロの方のいいなりになるのではなく、どのような住宅にしたい  
のかを“自分で考える”ということが大切です。

## 2. 住まいを“自分で考える”とは？ ……照明計画の場合

私は戸建住宅の建築設計を行ったこともありますが（一応一級建築士です）、専門が照明で  
すので照明計画に絞って話を進めます。

「照明を自分で考えていますか？」

このように建主さんに質問するとほとんどの方が自分で考えていると言うでしょう。

しかしよく考えてみてください。

自分で考えているのは照明器具ではありませんか？

デザインやW(ワット)数、価格などから照明器具を選んでいるだけではありませんか？

最初に申し上げたことを思い出してください。

“モノ”ではなく“空間”を創るのです。

照明器具を選ぶということは“モノ”を選んでいるだけであって、“空間”を創っているのではありません。

なぜでしょうか？

実は照明器具を設置する場所がすでに決められているから、そのようになってしまうのです。

照明器具とその設置位置を自分で決めてこそ、“照明空間”を創るということになるのです。

しかし照明器具の設置場所とは、部屋の天井の中央と決まっているのではという気がしませんよね。

そうしないと明るさが取れないようにも思えますし。

部屋中をまんべんなく照らすという目的だけを考えると、部屋の天井中央に照明器具を設置するという方法は合理的です。

さらにこの方法は設計者もあまり深く考える必要がありませんし、施工者もその場所に引掛けシーリングを設置しておけばいいだけです。

照明器具は建主さんに選んでもらえれば、押し付けた感じもなくなります。

この方法は一見とても効率的でみんなに都合が良いために、とても広まっています。

ちなみに“一室一灯照明方式”といいます。

ただし、この方式には致命的な欠陥があります。

光環境を変えることができないのです。

つまり、その部屋でどんな生活行為を行うときでも、同じ光環境になってしまうということです。

ここでの光環境とは、その部屋における明るさの量や明るさのバランスなどです。

よく考えてみてください。

リビングで新聞を読む時と、映画を鑑賞する時は同じ明るさでよいでしょうか？

それらの行為に合った明るさがあるのではないのでしょうか？

本来その部屋で行う行為に合わせて、光環境を変える方が自然ですよ。

ではどのようにすれば光環境を変えられるのでしょうか？

ここで“多灯分散照明方式<sup>※</sup>”の出番になります。

これは部屋のいろいろなところに W 数の小さい複数の照明器具を配置する方式です。

※この方式は国土交通省総合技術開発プロジェクト<自立循環型住宅開発委員会>における研究成果です。

舞台を考えれば分かりやすいと思います。

舞台ではシーンごとに照明を変えますよね。

住まいのリビングもいろいろなシーンがあります。

そのシーンごとに、点灯する照明器具の組み合わせを変えていろいろな照明パターンを作るのです。

新聞を読むのであれば上からの光を集中させて明るくすれば読みやすいですし、映画を鑑賞する時は全体的に暗くした方がリラックスできますよね。

このように、その部屋で行う行為に適した光環境のことを“質の高い光環境”といいます。

今までは、ひたすらに明るさを追い求めて、“光環境の量”を増やすことに専念してきました。

これからは、“光環境の質”が重要視される時代がきます。

しかし、業者の方に任せっきりにしていたのでは、この“多灯分散照明方式”は採用してもらえません。

“一室一灯照明方式”の方がはるかに楽だからです。

少なくともリビングは、いろいろな照明パターンが作れるようにして欲しいとお願いしてみてください。

もしお願いしてみてもよく分からないようであれば、いっそのこと自分でやってみましょう。

### 3. しあわせ・あかり計画

そもそも住まいは自分で考えるものと最初にお話しさせていただきました。

しかし専門知識が必要であることから、専門知識を持つプロの方に手伝ってもらって自分の考えを実現させましょうということでした。

照明計画についても同じことなのです。

自分でできることは自分で行って、自分でできないことだけ手伝ってもらえばよいのです。

そうすれば、自分が最も気に入った照明空間が創れますし、これからの住まい方もシミュレーションができています。

ライフスタイルが変わっても、柔軟に対応できます。

さらに照明器具費や電気代も安くすることができるのです。

この建主さん自身による住まいの照明計画のことを“しあわせ・あかり計画”と呼んでおり、私の事務所ではそのサポートを行っています。

まずは“簡易設計マニュアル –自分で簡単に照明空間をデザインする方法–”を読んでみてください。

具体的な内容は“[しあわせ・あかり計画](#)”のサイトを見て頂くとして、なぜ照明器具費や電気代が安くできるのかをお話しします。

### 4. 施主支給

このレポートのキーワードの一つです。

まず施主とは建主さんのことを指します。

そして施主支給とは、建主さんが自ら照明器具等を購入し、工務店に支給するというスタイルです。

ハウスメーカー、工務店、設計事務所のどの場合でも可能です。

この時工務店や電気工事店を経由せずに商品を購入できるため、一般的には安くなります。

当事務所でも施主支給のお手伝いをしていますが、10～20%は簡単に安くなりますし、金額で考えても少なくとも5万円は安くなります。

しかも自分の気に入ったメーカーや商品を自由に選ぶことができます。

ただし、自分で選ぶということはそれだけの時間と労力が必要になります。

また、商品の納入日などを工務店と打合せなければなりません。

商品の種類によっては建築との取り合いを検討してもらわなければなりませんし、設置する費用が必要になる場合もあります。

また工務店によっては、この施主支給を嫌がることもあります。

ただ住宅用の照明器具は建築との取り合いを考えなければならないことがほとんどなく、比較的施主支給しやすい商品といえます。

万一不良品などがあった場合に備えてメーカー保証の有無やトラブル時の対応についてきちんと明記している販売店を選ぶことが重要です。

## 5. 電気料金の削減

次になぜ電気料金が安くなるかを考えてみましょう。

一般的に消費電気の少ない最新器具は器具代が高いという傾向がありますが、器具代の高い分を電気料金を安くすることで償却することができるために、トータルでは安くなることが多いです。

しかし業者は工事費のコストダウンを求められると、消費電気量が多いけれども器具代の安い器具を選択するということをしてしまいます。

そうすると一見安くなったように見えますが、長い目でみるとコストが掛かっているということになります。

自分で計画しますとトータルのコストで比較するようになりますから、結局消費電気の少ない照明器具を選ぶことになり、電気料金が安くなるのです。

器具代は施主支給で安くなりますから、あまり気にすることはありませんよね。

しかもそれだけではありません。

多灯分散照明方式を用いることでさらに電気料金が安くなるのです。

多灯分散照明方式は器具の数が増えるので、電気料金も高くなるような気がしますよね。

確かに器具の数を増やすだけでは消費電力量が増えて、当然電気料金は高くなります。

ではなぜ電気料金が安くなると言えるのでしょうか？

多灯分散照明方式は、住まいのいろいろなシーンに合わせて、点灯する照明器具の組み合わせを変えることができるという特長があるとお話ししました。

これはつまり、暗くてよいシーンでは暗い照明パターンを作れるということです。

“一室一灯照明方式”ではそれができません。

照明は点けるか消すかだけの選択になります。

点灯中は、常に最大の明るさで点灯し続けるのです。

“多灯分散照明方式”を用いて、“その部屋で行う行為に最適な光環境を創る”ということが、無駄に明るい時間及び無駄に明るい器具を削減し、その結果として電気料金の削減を実現するのです。

但し、次の二点に注意してください。

1. 複数の照明器具のW数の合計があまり大きにならないように計画する（設計時）。
2. 必要な照明器具のみ点灯する（使用時）。

“自分で光環境をコントロールする”という意識を持ってください。

しかも消費電力量を削減するということは省エネルギーを実現し、深刻化する地球環境問題に直接貢献できるのです。

人にやさしく、地球にもやさしい—

まさに LOHAS な暮らしの実践ですね。

## 6. 疑問点

住まいの照明計画を建主さんが行うことのメリットは分かって頂けましたでしょうか？  
しかしいくつかの疑問点が出てくると思います。

### 疑問点1. 本当に工務店などの業者が作成する照明プランは効率だけを考えているのだろうか？

もちろん全ての業者がそうではありません。しかしほとんどの業者は“多灯分散照明方式”という言葉すら知らないと思います。

また、照明メーカーに照明プランの作成を依頼しているところも多いです。照明メーカーは表面的には無料で（実際は器具価格に乗せられています）照明プラン作成を行ってくれますが、商品を守るためのサービスであり、自社の商品しか使わないため、建主さんにとって最適なプランになりません。

### 疑問点2. 自分で照明計画を行って明るさは大丈夫だろうか？

“一室一灯照明方式”であれば、照明メーカーのカタログに表示されている畳数表示（この器具は何畳用ですという表示）を参考にすれば大丈夫です。“多灯分散照明方式”で考える場合は少し難しいですが、当事務所の“簡易設計マニュアル”を参考にしてください。  
また、照明メーカーの照明プラン無料作成サービスは建主さんでも利用できますので、まずそちらでベーシックプランを作成してもらってから、自分でオリジナルプランに進化させるという方法もあります。

### 疑問点3. 業者との関係が悪くなるのでは？

業者の方も建主さんに満足してもらえる住宅づくりが理想ですので、無理のない要望であれば問題ないはずですよ。

しかし契約後に施主支給の話を出したりすると信頼関係を損なうことにもなりかねませんから、最初にその要望を出しておくべきです。

また、照明プランに施工上の問題がないかどうかをチェックしてもらったり、照明器具の納入日をきちんと確認するなど業者の方とのコミュニケーションはより重要になります。  
そういったことさえしっかりと行っていれば、関係が悪くなるということはありません。

## 7. さいごに

住宅を自分で創るという感覚が何となく分かって頂けましたでしょうか？

ここでは照明計画のお話しを中心にしてきましたが、カーテンなどのインテリア、洗面台やキッチンなどの設備についても自分で計画できます。

どこまで自分で行うかはケースバイケースですが、大事なことは業者に任せっきりにしないで、自分で“**建てる**”という意識を持つことです。

その意識がその住まいへの思い入れにつながり、これから何十年もの住まい方をより良く変えていくのです。

最高の住まいを建てられることをお祈りしています。

以上

**松下進建築・照明設計室**

<http://www.matsushitas-lighting.com/>

**しあわせ・あかり計画**

<http://www.matsushitas-lighting.com/sa/index.html>

**e-book 照明デザイナーの明るい未来**

<http://www.matsushitas-lighting.com/book.htm>

メルマガ LIGHT & LOHAS

<http://www.matsushitas-lighting.com/sa/merumaga.html>